

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-84	高等学校	国語科	古典探究	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	古探 704 古探 705	精選 古典探究 古文編 精選 古典探究 漢文編		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって主体的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、選択科目としての性格や特色を意識するとともに、共通必履修科目において育成された能力を基盤として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の関連する内容を発展させ、育成を目指す資質・能力を確かめながら、主体的に、対話をとおして、深く学ぶことができるよう、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え的確に判断するバランスのとれた能力

が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もともと基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという行為は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、表現のための学習と理解のための学習とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。そのため、この教科書では、表現と理解を結びつけた独自の課題（＝学習の場）を設定することで、生徒たちの主体的な学習活動を促し、言語能力を総合的に高められるよう配慮しました。また、内向的な学びに向かいがちな学習のあり方に対する反省を踏まえ、自分の意見や考えの積極的な発信や他者との協働的な活動をとおして、開かれた個性、広範な教養が育まれることを目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいづる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題の設定についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
古文編 第一部		
一 説話	長きにわたり読み継がれてきた説話を読むことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	13～20
二 随筆(一)	随筆に表現された筆者のものの見方や考え方などを理解することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	21～40
三 物語(一)	登場人物の行動や心情を読み取り、物語に描かれた人間のありようについて考えることをとおして、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第四号)	41～60
四 随筆(二)	表現に注目し随筆に表現された筆者の考え方を読み取ることをとおして、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)	61～70
五 物語(二)	物語の多様性について考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	71～98
六 日記	日記の特徴を理解し、表現されたできごとを読み取ることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	99～108
七 軍記	物語の背景や享受について理解することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	109～120
八 伝承・伝説	伝承が現代とどのようにつながっているかを考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	121～126
九 和歌・連歌・俳諧	古典の韻文を読んだり作ったりすることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	127～146
古文編 第二部		
一 随筆	随筆に表現された筆者の価値観や心情を読み取ることをとおして、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第四号)	155～168
二 物語(一)	歴史的な物語に描かれたできごとの背景を理解することをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	169～186
三 日記	多様な日記を読み、それぞれに表現されたできごとや心情を読み取ることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うとともに、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した(第一号、第二号)	187～202
四 評論(一)	評論に表現された筆者の考えを参考に自らの言語表現について考えることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第二号、第五号)	203～216
五 物語(二)	和歌や芸能などの多様な言語文化と接続する物語の広がりについて考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	217～248
六 評論(二)	評論の内容を読み取り、その現代的な意義について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	249～260
七 近世の文学	同時代に書かれた多様な作品を読み、それぞれの特徴や現代まで伝わってきた意義について考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	261～286
古典を読むということ 愛づ——虫愛づる姫君 近松浄瑠璃	古典に関する文章を読み、現代語と古語、日本の言語文化の継承などについて考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	8～11 148～153 287～290

漢文編 第一部		
一 故事成語	現代でも使われる成語のもととなった故事を読み、言葉の奥行きについて考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	13～24
二 漢詩 近体詩	近体詩の形式や内容の理解と、訳詞の試みをもとに、日本の言語文化における漢詩の意義について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	25～34
三 史伝	史伝に描かれた状況を読み取り、登場人物の生き方について考えることをとおして、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)	35～52
四 文章	文章に表現された主張に対して自分の意見をもつことをとおして、義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)	53～60
五 思想 儒家道家の思想	中国の思想を形成する柱となった儒家と道家の思想の特徴を理解することをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	61～72
六 小説	小説という非日常的な内容が描かれた話の展開や構成を理解することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	73～80
七 日本の漢詩文	日本で書かれた漢詩文を読んだり、身近にある漢詩文を調査したりすることで日本の言語文化における漢詩文の意義について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	81～94
漢文編 第二部		
一 小話	作品の表現の工夫やおもしろさについて理解することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	101～108
二 史伝	『史記』の中にどのような話が集められ、また読み継がれてきたかについて考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	109～122
三 漢詩 古体詩	内容の理解・解釈をふまえて朗読することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	123～136
四 小説	小説に描かれた内容が関連する作品とどのような関係にあるかを考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	137～150
五 「三国志」の世界	歴史と小説が混ざり合い、一体のものとして受容されてきた「三国志」の世界について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	151～168
六 思想 思想と寓話	諸子百家の思想が寓話を用いて表現されたことについて考えることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した(第二号)	169～184
七 文章	文章の表現や構成、歴史的な評価などをもとに内容を理解することをとおして、義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うとともに、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第二号、第四号)	185～198
『論語』——私の古典 『莊子』と素粒子	古典に関する文章を読み、中国の文化と関連する日本の言語文化について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	8～11 96～100

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-84	高等学校	国語科	古典探究	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	古探 704 古探 705	精選 古典探究 古文編 精選 古典探究 漢文編		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 教材選定と作成の基本方針

言語文化の変遷について理解を深め、さまざまな角度から古典の世界に慣れ親しむことができるような教材選定

教材の選定、教材化にあたっては、共通必修科目である「言語文化」における学習の成果をふまえ、古文・漢文とも、各時代、各ジャンルにわたって、学習者が興味・関心をもって学習することができる基本的な文章、探究的な学びへの意欲を高めるような読み応えのある文章等、学習者の発達段階に配慮しつつ、広く、またバランスよく取り上げました。

(2) 構成と配列の基本方針

古文と漢文とを対象とする「古典探究」の性格をふまえ、一つ一つの教材の価値を大切にしながら、学習者がテキストに対し過度の抵抗感をもつことなく、体系的な知識の習得と自発的かつ継続的な学習ができるよう、この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

学習の流れを重視し、古文編と漢文編の二分冊とし、各編は二年度以降三年次までの使用という観点から、大きく二部構成としました。

2 「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」

言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化について、生徒の興味・関心を広げ、知識及び技能の着実な理解を図るために、さまざまな工夫を凝らしました。それぞれの教材に「語句と表現」を設け、語彙・漢字等について取り上げました。我が国の言語文化に特徴的な表現の技法を学ぶだけでなく、古典と現代の言葉の連続性や変化について考えることで、実生活における総合的な国語運用力の向上を図るため、特に配慮してあります。また、古文編では「文法から解釈へ」、漢文編では「漢文を読むために」というコラムを設け、文語、訓読のきまりや特徴的な表現の技法、文学史の流れ等について理解することが、学習者自身の知見を広げ、解釈を深めることにつながることを示しました。

3 「読むこと」

個々の作品に特有の表現やその時代背景等に留意した学習を進められるよう、文種・時代による単元構成を基本としました。同時に、時代を越えたテーマを意識した単元を設けたり、時代的には古典に含まれない作品や古典について書かれた現代の文章等を適宜取り上げたりすることで、「古典」全体を見わたす視座を強く意識しています。また、コラム「古典の扉」では、教科書に採録された教材の内容理解を通して古典全般への興味・関心を喚起し、学習者が自らすすんで古典を読むきっかけとなるよう意を用いました。

4 学習指導についての配慮

- ①課題……原則として、各教材の末尾に設け、内容を理解するための項目を、問いや作業の指示の形で適宜盛り込みました。
- ②学びを広げる……「課題」を発展させた活動として、言葉の学びを主体的かつ協働的に深め、広げられるような課題を単元ごとに設けました。
- ③語句と表現……教材中の言葉や文語・訓読のきまり等に注目し、読解力や表現力を高めるための課題や活動を設定しました。
- ④語句・句法・訓読で注意する語……古文編では、古文理解の上で基礎となると思われる古今異義語・古文特有語を中心に、本文に印を付して脚注欄に掲げました。漢文編では、漢文理解の基礎となる基本的な句法と、訓読の際に注意すべき語についてそれぞれまとめ、本文に印を付して脚注欄に掲げました。

- ⑤脚注……生徒が容易に調べられるものや文脈から類推できるようなものは除き、内容理解のための有用な情報として機能するよう、わかりやすい注を施しました。
- ⑥脚問……丸番号を用いて、脚注欄に据えました。「脚問」は「課題」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく手がかりと位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることをないように配慮しました。
- ⑦二次元コード……各単元の扉等に適宜二次元コードを付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載しました。

5 用字・用語・表記について

- ①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。
- ②常用漢字以外の漢字については、原則として本文教材ごとの初出に振り仮名をつけました。
- ③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞等読みにくいもの、迷いやすいもの等には教材初出で振り仮名をつけました。
- ④仮名遣いは、本文については歴史的仮名遣いとし、解説等口語体の文章は現代仮名遣いとししました。振り仮名も同様です。
- ⑤外国地名・外来語等のカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

6 写真・挿絵・図版等について

教材の読解や鑑賞の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版等を必要に応じて掲載しました。

7 資料編について

学習者が主体的に学びを広げていくために参考となる、以下の資料を収録しました。

古文編…「古典文法要覧」「古文重要語句」「古典文学史年表」「装束」「住居・調度」「陰暦」「古時刻／古方位／十干と十二支」「官職／位階」「旧国名・都道府県名対照図」「京都・奈良付近地図」「平安京条坊図」「内裏図」「大内裏図」

漢文編…「漢文基本句法」「訓読で注意する語」「漢文参考略年表」「中国参考地図」「春秋・戦国時代要図」「五行十干／十二支・干支／度量衡表」「太陰太陽暦／二十四節気／節日」

これらの活用により、多様な学びの可能性が開かれ、学習者の言語活動が豊かなものとなることが期待されます。

2. 対照表

図書の構成・内容（教材名）		学習指導要領の内容	該当箇所
古文編 第一部			
	古典を読むということ（竹西寛子）	◆我が国の言語文化 ア・エ ●読むこと オ・キ・ク	8~11
一 説話	博雅の三位と鬼の笛 小野篁、広才のこと 大江山	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・イ・エ・オ・カ・キ [言語活動例] ア	14~19
	《学びを広げる》和歌にまつわるエピソード		20
二 随筆（一）	徒然草（あだし野の露消ゆる時なく／悲田院の堯蓮 上人は／世に従はん人は／花は盛りに） 方丈記（ゆく河の流れ／安元の大火／日野山の閑居）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ・カ・ク [言語活動例] イ	22~30 32~35 37~39
	《学びを広げる》随筆と記録 —『百練抄』との読み比べ		36
	[古典の扉] 隠者の文学		40
三 物語（一）	竹取物語（かぐや姫の昇天） 伊勢物語（初冠／筒井筒／月やあらぬ／小野の雪） 大和物語（姨捨）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・オ・カ・ク [言語活動例] イ	42~51 54~60
	《学びを広げる》古典作品の翻案を読む		52~53
四 随筆（二）	枕草子（すさまじきもの／中納言参り給ひて／雪の いと高う降りたるを）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ・エ ●読むこと ア・ウ・エ・オ・カ・キ・ク [言語活動例] カ	62~64 66~69
	《学びを広げる》古語と現代語		65
五 物語（二）	源氏物語（光源氏の誕生／藤壺の入内／北山の垣間 見） 大鏡（雲林院の菩提講／花山天皇の出家／弓争ひ／ 三舟の才）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・エ・オ・カ・ク [言語活動例] イ	72~90 93~97
	《学びを広げる》『栄花物語』との読み比べ		91~92
	[古典の扉] 「声」を聞く——物語の歴史		98
六 日記	更級日記（あこがれ／源氏の五十余巻） 建礼門院右京大夫集（なべて世のはかなきことを）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ・エ ●読むこと ア・ウ・エ・オ・カ・キ・ク [言語活動例] オ	100~107
	《学びを広げる》古典作品にみる「夢」		108
七 軍記	平家物語（忠度の都落ち／能登殿の最期）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・エ・オ・カ・キ [言語活動例] オ	110~117
	《学びを広げる》古典作品の継承と改変		118
	[古典の扉] 平家の光と影をたどる		118~119
八 伝承・伝説	古事記（倭建の東征）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・ウ・エ ●読むこと ア・オ・カ・キ [言語活動例] オ	122~125
	《学びを広げる》『古事記』の登場人物		126
九 和歌・連歌・ 俳諧	和歌十六首／水無瀬三吟百韻／俳諧二十句	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・イ・ウ・オ・カ [言語活動例] ウ	128~135 138~143
	[古典の扉] 和歌から連歌へ、連歌から俳諧へ		137
	《学びを広げる》〈座の文学〉を楽しもう		144~146

古文編 第二部			
	愛づ——虫愛づる姫君 (中村桂子)	◆我が国の言語文化 ア・エ ●読むこと オ・キ・ク	148~153
一 随筆	枕草子 (木の花は／宮に初めて参りたるころ／二月 つごもりごろに／大納言殿参り給ひて)	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・エ・オ・カ [言語活動例] ウ	156~165
	《学びを広げる》随筆を書く		166~167
二 物語 (一)	大鏡 (道真と時平／最後の除目／肝試し／道長と詮 子)	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・エ・オ・カ・キ [言語活動例] ア	170~175 177~186
	《学びを広げる》日本三大怨霊		176
三 日記	蜻蛉日記 (うつろひたる菊／鷹を放つ) 和泉式部日記 (夢よりもはかなき世の中を) 紫式部日記 (秋のけはひ／和泉式部と清少納言)	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・エ・オ・カ・ク [言語活動例] イ	188~190 192~200
	《学びを広げる》広がる逸話 —— 『拾遺和歌集』『大 鏡』		191
	[古典の扉] 平安時代の文学——女性と仮名		201
四 評論 (一)	俊頼髄脳 (沓冠折句の歌) 無名抄 (深草の里) 毎月抄 (心と詞) 正徹物語 (一字の違い) 去来抄 (行く春を／岩鼻や)	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・エ・オ・カ [言語活動例] ウ	204~215
	《学びを広げる》想像の世界を詠む		216
五 物語 (二)	源氏物語 (物の怪の出現／心づくしの秋風／明石の 君の苦悩／女三の宮の降嫁／萩の上露／浮舟と匂 宮)	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・オ・カ・キ・ク [言語活動例] イ	218~223 226~245
	《学びを広げる》能「葵の上」		224~225
	[古典の扉] 広がる源氏物語の世界		247~248
六 評論 (二)	無名草子 (文) 風姿花伝 (下手は上手の手本) 難波土産 (虚実皮膜の間) 玉勝間 (師の説になづまざること)	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ・エ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ・カ [言語活動例] キ	250~254 255~259
	《学びを広げる》世阿弥の言葉		254
	[古典の扉] 国学の隆盛		260
七 近世の文学	西鶴諸国ばなし (大晦日は合はぬ算用) 曾根崎心中 (道行) 南総里見八犬伝 (芳流閣の決闘) 東海道中膝栗毛	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ・エ ●読むこと ア・イ・エ・オ・カ・ク [言語活動例] イ	262~266 268~277
	《学びを広げる》読み比べ——太宰治「貧の意地」		267
	[古典の扉] オンライン「凶夢歌舞伎」		284~286
	近松浄瑠璃	◆我が国の言語文化 ア・エ ●読むこと オ・ク	287~290
	文法から解釈へ	◆言葉の特徴や使い方 ア ◆我が国の言語文化 イ	70・120 168・202

漢文編 第一部			
	『論語』——私の古典（高橋和巳）	◆我が国の言語文化 ア・エ ●読むこと オ・キ・ク	8~11
一 故事成語	画竜点睛／病入膏肓／杞憂／塞翁馬／吳越同舟	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ・エ ●読むこと ア・オ・カ・キ・ク	14~22
	《学びを広げる》故事をたずねる	[言語活動例] オ・キ	23~24
二 漢詩	近体詩（鹿柴／宿建德江／涼州詞／春夜／送友人／送僧帰日本／登高／遊山西村）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・イ・オ・カ・ク	26~31
	《学びを広げる》訳詞の試み	[言語活動例] ウ	32~33
三 史伝	史記（鴻門之会／四面楚歌／項王最期）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・イ・オ・カ・ク	36~43 45~49
	《学びを広げる》せりふの朗読／項王の生きざま	[言語活動例] エ・イ	44/50~51
四 文章	漁父辞／春夜宴桃李園序	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ	54~55/58~59
	《学びを広げる》対立する人生観	◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・イ・ウ・オ・カ・ク	56
	[古典の扉] 漁師と隠者	[言語活動例] ア	57
五 思想	儒家・道家の思想（論語／孟子／荀子／老子／荘子）	◆言葉の特徴や使い方 ア・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・オ・カ・キ	62~70
	《学びを広げる》儒家と道家	[言語活動例] オ	71
六 小説	桃花源記／売鬼	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・オ・カ・キ	74~76 78~79
	《学びを広げる》さまざまな「鬼」	[言語活動例] オ	80
七 日本の漢詩文	自詠／山茶花／夜下墨水／悼亡／無題／送夏日漱石之伊予／航西日記／池亭記／取塩於我国／桜戀春容	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ・エ ●読むこと ア・イ・エ・オ・カ・キ	82~93
	《学びを広げる》身近にある漢詩文	[言語活動例] オ	94
漢文編 第二部			
	『荘子』と素粒子（湯川秀樹）	◆我が国の言語文化 ア・エ ●読むこと オ・キ・ク	96~100
一 小話	不死之薬／三横／不顧後患	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・オ・カ・ク	102~107
	《学びを広げる》諫言の方法	[言語活動例] キ	108
二 史伝	史記 廉頗と藺相如（完璧帰趙／刎頸之交） 荆軻（風蕭蕭兮易水寒／凶窮而匕首見）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・エ・オ・カ・キ	110~116 117~121
	《学びを広げる》「列伝」にとりあげられた人々	[言語活動例] オ	122
三 漢詩	古体詩（桃夭／生年不滿百／秋風辞／飲酒／兵車行／長恨歌）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・イ・オ・カ・ク	124~135
	《学びを広げる》朗読会を開く	[言語活動例] エ	136
四 小説	人面桃花／酒虫／葉限	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・オ・カ・キ・ク	138~141
	《学びを広げる》小説の翻案	[言語活動例] イ	149
五 「三国志」の世界	桃園結義／三往乃見／趙翼徳大開長坂橋／進遇於赤壁／股肱之力	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ・エ ●読むこと ア・ウ・オ・カ・キ・ク	154~160 162~166
	《学びを広げる》読み比べ『三国志』と『三国志演義』 「三国志」の世界	[言語活動例] イ・オ	161 167
六 思想	思想と寓話（孟子／荀子／老子／荘子／列子／韓非子／墨子）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・オ・カ・キ	170~181
	《学びを広げる》寓話の意図	[言語活動例] ウ	182
	[古典の扉] 諸子の思想と寓話		184
七 文章	師説／捕蛇者説／赤壁賦	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・イ・エ ●読むこと ア・ウ・エ・オ・カ・キ	186~197
	《学びを広げる》唐宋八大家	[言語活動例] オ	198
	漢文を読むために	◆我が国の言語文化 ア ●読むこと エ	34・52・150